

2015年10月16日

調査・研修報告書(会派個人用)

会派名: 日本共産党議員団

報告者: 松浦昇

実施場所: 神戸国際展示場

実施日: 2015年10月9日・10月10日

■目的・課題・問題事項(調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など)

「きょうせけん」は全国で共同作業所づくりをとけて、障がい者の働く場、活動の場、生活の場、生活支援センターなど、成人障害者の地域生活を支えるための多様な社会資源による事業体、運動体として活動を支援する全国組織。今回は第38回の全国大会で障害のある人びとが労働を通じて社会に参加し、また地域でのゆたかな暮らしと権利の保障をめぐる活動などが論議報告される集いで、庄原市政に教訓など生かして欲しい。

■参考とすべき事項

- ① 大会では、役員の前川克徳氏より、「神戸で考へた、戦災・震災と障害者、そして障がい者施設条約」として基調報告があった。第二次世界大戦で多数の障がい者の犠牲、阪神淡路、東日本大震災では障がいのある人の死亡率が2倍で、こゝでの教訓を生かすと、生活保護をはじめ、憲法25条と存する問題、障害者総合支援法の「改正」障害者差別解消法について、私たちが「学び」を広げていくことが大切で、もっとなげき、支援団を増やそうと発言。
- ② この大会は、分科会が二日間にかつてあり「相談支援」メインは「違へるとうさあてりまへに、人生の主人公として」。「相談支援」にたずねる場合、当事者の真の願いに気づくこと、当事者と一語にその実現の道筋を考へていく。制度にあるサービスをはりつけるだけの「相談支援」から「本心と相談、打て出る支援」に踏み出すこと。とりこみ支援を作っていくため積極的に行政に働きかけることの重要性を説く。

■提言・その他(本市の施策等にどのように活用すべきかなど)

- ① 分科会での当事者の発言(くは白岩の生活、くはがら〜ホームの生活)
  - 発言や言葉の少なりの人こそ支援者は、しっかり話を聞いてほしい。
  - 利用者は自分のこまっていること、が、かからなりことかある。こまごま話の中で本人の真意や、困っていること、支援者はととってほしい。
  - 支援者は当事者の思いを自分のここのように考へてほしい。
- ② 庄原市の場合、知的、精神で作業所が働かなくなるとか出さる障害のある方は、自宅からいらして居る人が多く、他市でみられる体験外泊か女性支援施設建設でケレブワ一人ごらしの良さを経験すれば社会自立が促進されると思う。

※ 調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。